

## 特集 検査室を支える企業力 2025

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター・西部医療センター × メディアス

# 在庫管理負担が大幅に軽減

## 試薬のクラウド管理で施設間連携も

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター（名古屋市、498床）と名古屋市立大学医学部附属西部医療センター（同、500床）は公立大学法人化をきっかけに2022年4月、臨床検査薬管理システム「Medyus2-DR」を導入した。導入前は使用した試薬のロット情報や在庫数の登録などを手作業で行う部分が多く手間と時間がかかっていたが、これらの負担が大幅に軽減し棚卸しで発生していた在庫のズレも大きく減少した。適切な在庫管理は病院機能評価にも役立っており、安全で迅速な医療を確保し、資源を効率的に運用するための重要なシステムとなっている。



現在、名古屋市立大学医学部附属病院は5施設あり、それらを合わせた病床数は約2000床。2025年4月に名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院を加えて計6病院となり、互いに連携し、高度急性期から慢性期までの多様な医療の提供を目指している。

東部医療センターは心血管・脳血管疾患やがんの高度専門医療、救急医療、感染症医療の充実に注力している。臨床検査技師は36人が所属し、生理検査の件数が比較的多い。

一方、西部医療センターは、がん診療や小児・周産期医療の充実に図っており、男性不妊の診療も手がける生殖医療センターを設置している。臨床検査技師は38人が所属し、血液内科や新生児の検体が多い。

### 手作業からオンラインへ

東部・西部医療センターはそれぞれ500～550品目の臨床検査試薬を使用している。従来使用していた試薬管理システムは発注時と入荷時に品番や個数が登録されるもので、使用前後のロット管理や在庫などを随時管理することができなかった。中央検査科の係長がエクセルに手入力して管



東部医療センターの皆さん

理をしていたが時間と手間がかかり、棚卸しで在庫数が合わないことも頻発していた。これらの課題の解決方法を探していたところ、メディアスからMedyus2-DRの提案を受けた。

Medyus2-DRは試薬の発注から入荷、在庫管理、棚卸しなどをオンラインで処理できるクラウド型システム。各試薬のロットや使用期限などを記録して試薬管理台帳を自動作成する機能も備えている。データは院内設置のサーバーで管理する方法とインターネットのクラウドで管理する方法を選択できる。

西部医療センターの小川技師長はMedyus2-DR導入に当たり「試薬管理台帳の作成など2018年12月施行の医療法改正に対応した機能を備えている点が有用と考えた」と指摘。また附属病院群の将来的な連携を視野に入れ、まず東部・西部医療センターの2施設から連携を進める上でクラウド方式にて管理できることを利点に挙げた。

西部医療センターの久野係長は、「以前は入荷数と月末締め後の請求依頼数が合わないことが多く、ズレがどこで発生したかを追跡することが難しかった」と振り返る。Medyus2-DRの導入で発注から入荷、使用時の記録などを確実に管理できるようになり、作業負担が大幅に軽減したと実感



西部医療センターの皆さん

している。

ホルマリンを対象にした個別管理機能も活用している。以前は毒劇物管理の一環で帳簿に手書きで払い出し



北村技師長（右）と小川技師長

などを記録していたが、現在はホルマリンメーカーが各瓶に印刷しているバーコードを読み取ることで記録できる。

東部医療センターの高橋係長は、Medyus2-DRで品目ごとに複数の定数パターンを設定しておくことで、大型連休前など発注数を増やす際の計算が簡単にできる点を評価。必要以上の発注がなくなり、在庫切れで急配を依頼することが減り、慌てずに済む環境となったと話す。

### 検査部内の意識も変化

さらに両センターで共通のシステムを使用する利点として、情報共有がしやすくなり使用頻度の少ない、使用期限が近いといった試薬のロスを防ぐことができる点を挙げた。試薬マスタが共通のため、少量の試薬は2施設で分け合えるなど施設間で相談して対応することで、期限切れの防止や在庫の適正化につながっている。

また、東部医療センターの北村技師長は「検査部内で試薬の在庫管理に対する意識が変わった」と指摘。以前は在庫管理業務全般を係長1人が引き受ける形になり他の部門員が携わる機会がほとんどなかったが、現在は各部門員が試薬の使用時にハンディーターミナルでバーコードを読み取るなどの作業に携わるため、試薬の取り扱いに対する注意意識が高まったと感じている。

手軽に  
試薬管理を実現

## ロット管理・台帳作成の効率アップ!



Medyus2-DR 医療材料・医薬品ソフトと併せて病院物流を総合管理

発注と納品情報をオンライン化しロット管理は自動化へ  
クラウド型システムで初期投資を削減。オンプレミス型も選択可能

- 現物バーコード利用と、シールによる個別管理を選択可能。
- 試薬使用時にバーコードを読むだけ。ボトル単位での小分け管理も可能。
- ISO15189 の運用もサポートする部署 / 分野 / 機器 / 作業員別の記録。
- 豊富な導入実績。運用方法についてもお気軽にご相談ください。

### オプションアプリの一例

- 使用実績に基づいた検査項目別の原価計算
- 院内システムや検査システムとの連動プログラム
- ホルマリン小瓶の院内における入出庫管理



株式会社メディアス

本社：〒920-8203 石川県金沢市鞍月5丁目181番地 AUBEビル6F TEL：076-255-1827  
拠点：東京・大阪・福岡  
www.medyus.co.jp